

「私の子どもに食べ物を！」と 母親たちの叫び

緊急食糧支援活動報告

PMS副院長／ジャラバード事務所長 ジアウルラフマン PMS支援室長 藤田千代子

まず初めに、深刻な干ばつや政変の一方
で米国によるアフガン資産凍結と銀行業務
制限で人々が多くの困難に直面する情勢の
なか、私たちアフガン人を助けて下さって
いる日本の全ての方々に感謝申し上げます。

困窮する一八〇〇家族に食糧配給

この度はご支援のお陰で、私たちはナン
ガラハル州のアチン、デヒバラ、シンワリ
(ガニハイル)、ナージャン、ドゥールババ、
ダラエヌールの六郡で栄養失調児、妊婦、授
乳中の女性を抱える一八〇〇家族(約一万八
千人)に食糧を配ることが出来ました。

アチン郡は二〇〇一年から続く戦争で何
度も爆撃を受けて来ましたが、それだけで
はなく、数年前に「全ての爆弾の母」と呼
ばれる大規模爆風爆弾までが外国軍によっ
て落とされたところでした。

スピンガル山脈沿いに位置するこれらの
地域は二〇〇〇年以来、干ばつによる様々
な問題に苦しんできました。私たちが食糧

支援の事前調査に行くと、農地には小麦も
他の作物もまったく育っておらず、完全に
不毛の地と化していました。適切な灌漑施
設がなく、水不足で農業は壊滅し住民は困
窮状態に陥っていました。

また、同地域は昨年八月の政変前ですと、
たとえ治安部隊のNATO軍や米軍がいて
も誰も近寄らないほど危険な場所でしたが、
現在ナンガラハル州全体の治安情勢は、日
に日に良くなっており、数ヵ月前と比べる
とずいぶん改善しています。そのお陰で私
たちは十数年ぶりに州内の郡をまたいで食
糧配給ができたわけです。

昨年十二月にペシャワール会とのオンラ
イン定例会議で、PMSの運営委員会から
食糧配給の要望を申し出ました。二〇〇〇
年からアフガニスタンの干ばつ対策支援を
継続し、更に近年の酷い干ばつ状況を把握
していた日本側は、やれるだけのことを頑
張ってやりましよう、快諾されました。

州政府の経済局・保健局と国連機関や国

際団体と協議を重ね、配給体制を整えるの
に一ヵ月を要しました。この経済封鎖の中
では銀行から十分な資金が引き出せないた
め、今回PMSは保健局との協働で、栄養
失調児・妊婦・授乳中の女性を抱える各郡
の三〇〇家族、計一八〇〇家族への配給を
決定し動き始めたわけです。

今回の配給物は、一世帯あたり小麦粉五
〇キロ、米十二・五キロ、食用油五キロ、豆
三・五キロです。日本側から「高価な米よ
り、その分小麦粉を多く配給しては？」と
の問いかけがありました。栄養失調児の
中には粥しか摂取できない乳幼児がいるこ
とを伝え、前述の四種の配給になりました。

垣根を越えて協力しました

PMSでは私(ジア)を筆頭に十二人でチ
ームを組み、まず食糧調達にPMS購買委
員会が複数の店から見積りとサンプルを事
務所に持ち寄り、それを「ドクターサーブ
ナカムラコミッティーメンバー」が精査し
て、良質で価格も妥当な店と契約を結びま
した。配給先では、一日目に郡立の診療所
で栄養失調児・妊婦・授乳中の女性の診察
をして三〇〇家族を選ぶ必要がありました。
そして配給を決定した家族に食糧の配給場
所を伝え、PMSのロゴとスタンプを入れ
た配給カードを渡しました。しかし、食糧
を希望して押し寄せる数千人の中から三〇
〇家族を選ぶのは、私とハフィズラー医師

にとつては大変苦しい仕事となりました。

そして二日目、PMSのチームはジャララバードで一〇〇家族分の食糧を満載したトラック三台に同行して配給場所に向かい、保健局の職員と一緒に食糧を配布しました。PMSは二〇〇一年のドクターサーブナカムラの指揮で実施した食糧配給の経験をもとに、また今回は資金が限られていることもあり、他の機関とは違う食糧支援のやり方をしました。

我々は事前に調査、診察をして支援対象者を決め、配布は私たちチームと州政府職員とで行ない、警備・誘導面では当局の全面的な協力を得ました。干ばつで食糧危機



誘導担当者の指示に従い、列を作り配給を待つ人々。ナージャン郡。(2022年2月4日)

に陥り命からがらの人々を助ける計画には、さまざまな垣根を越えて協力体制がつくれるものだと感じました。

今回六郡への食糧配給は一月二三日から二月五日にわたって行なわれました。現場で共に働いた保健局は、PMSの作業は適切で透明性をもって実施されたと我々を称えました。

また、今回支援の対象とした地域は州の中心から離れた国境沿いの辺境で、誰も助けに来てくれない地域だったので一層感謝されました。私たちが支援物資を配給すると、どの配給先でも大変に喜び、日本の方々に心から称賛しました。

第一回食糧配給を終えて

久しぶりに郡を越えて遠方まで出向き、食糧配給を実施したわけですが、行く先々のどの郡でも、作物が育っている農地を見ることが出来ませんでした。私たちの活動地では小麦や牧草で畑は青々とし、木々は芽吹いてきているというのに！

ドクターサーブナカムラが私たちに「PMSの活動地だけに希望がある。活動地から一歩外に出ると干ばつが厳しく悲惨だ」と話しておられたことを思い出しました。我々PMSの活動地、ベスド、シェイワ、カマ郡では、用水路のおかげで全ての農地が復旧しています。小麦や米、野菜、果物が豊富に収穫され、畜産も復活して、村に日曜

市が再び立つほどになっています。私たちは食糧支援チームは、配給地の干ばつの厳しさを目のあたりにし、ドクターサーブナカムラのお働きで、恵みに溢れている自分たちの地を心から神に感謝しました。

事前調査を行なって最も援助を必要とする人々に食糧を配布したことで、政府は満足しましたが、一部の人たちのみへの配布だったことに対して住民からは苦情が出ました。それもそのはずです。私たちが診察をして三〇〇家族を決めるときに辛くなるほど、殆どの人々が食糧危機に直面しているのです。

配給日になると、配給カードを持たない村人が大勢押しかけました。中でも女性が圧倒的に多く、親戚でもない女性に触れることは我が国ではご法度ですので、警備担当は押し寄せる女性たちとの接触を恐れて何度も配給が中断されました。腹を空かし弱っている子に何とか食べさせたい母親たち——きつと必死の形相だったことでしよう。このような女性たちに恐れをなして逃げた警備員もいたと、後に報告されました。アフガニスタンは八〇%が農村部です。そこに住む大勢の母親たちの、腹の底から絞り出すような「私の子どもに食べ物を」との声は、なかなか世の中に届きません。

私たちは今回の緊急食糧支援の事前調査と配給に携わったPMS職員たち、干ばつ被災以外の状況がつかめない配給先の六郡で

この作業に協力を惜しまなかった村長、
州
や郡の政府職員たちに感謝しています。

最後に、現在のよう
な困難な状況下にあ
る私たちアフガン国民を助けて下さった日

本の皆様に心から御礼を申し上げます。
敬意を込めて。